



第 157 回 ロシア革命①

1 ロシアにおける共産主義勢力

- ・ロシアでは、1613 年以来（ ）家の専制によるロシア帝国が続いていたが、他のヨーロッパ諸国に比べると著しく近代化が遅れていた。
- ・フランス資本の導入で工業化が進んだが、社会矛盾の拡大から改革が求められた。

- （ ）…1903 年にロンドンで結成されたマルクス主義政党。
結成直後に方針を巡って分裂した。
- （ ）…「多数派」の意味で、精鋭の革命家の指導による二段階連続革命を目指し、（ ）が指導した。
- （ ）…「少数派」の意味で、西欧型の労働者による大衆政党であり、まずは市民革命の実現を目指した。
（ ）やマルトフが指導。
- （ ）…1901 年結成。ナロードニキの流れをくむ革命政党で、土地の分配と皇帝専制の打倒を目指した。
- （ ）…1905 年結成。立憲君主政を目指すブルジョワ政党。



レーニン

ボリシェヴィキの指導者となったのは、まだ 33 歳の時であった。なおレーニンとは、彼が使用した 150 以上のペンネームや偽名のひとつにすぎない。



ブレハーノフ

ロシアのマルクス主義の父とされる。「歴史を動かすのは個人の資質や能力ではない」と述べた。第2インターナショナルにも参加。



マルトフ

ユダヤ系のロシア人である。ボリシェヴィキと対立したため、後の十月革命にも批判的で、結局ロシアから亡命した。

2 ロシア革命前夜

- ・このころ 1904 年に始まる（ ）の戦況が、不利となっていた。
- 1905 年、聖職者（ ）に率いられた民衆の平和を求めるデモに対して軍隊が突如発砲し、多数の死傷者が出た。
- ※これを（ ）といい、皇帝への信頼が失墜した。



皇帝ニコライ2世
ロマノフ家は美男美女ぞろいです。

- ◆（ ）（在位 1894～1917 年）
- ・1905 年、血の日曜日事件をきっかけに労働者の自治組織（ ）が武装蜂起し、各地で革命運動が起こり（ ）となった。
 - ロシア海軍のポチョムキン号でも反乱が起きた。
 - 政府は日露戦争の継続を断念し、（ ）で（ ）の開
設と憲法の制定を約束した。



聖職者ガボン

ロシア正教の司祭であり、労働者の組織化をしていた。皇帝のスパイという噂もあり、最後は殺された。



発砲する軍隊

事前にデモの届け出もあり、民衆は「皇帝万歳！」と言いながらのんびり行進をしていた。まさか軍隊が発砲するとは…。



映画「戦艦ポチョムキン」



ポチョムキン号

水夫の多くはウクライナ人であった。この反乱は、巨匠エイゼンシュテインが監督した映画で有名となった。

- ・ニコライ 2 世は、自由主義者の（ ）を首相にして改革を進めた。
→しかしドゥーマの立法権は制限され、ウィッテも保守派の反発によって失脚した。
- ・1906 年、保守派の（ ）が首相となり、反動的な政治を行った。
→言論の抑圧、革命派の弾圧、（ ）などが行われた。



ウィッテ

ポーツマス条約を結んだ時の、ロシア側の代表ということで、日本でもよく知られている。政治家、外交官として極めて優秀な人物だった。



ストルイピン

抑圧的な政治を行ったということで、かつては評価が低かった。しかし近年は、優秀な改革者であったとされ、見直されてきている。



怪僧ラスプーチン

いまだに謎が多い人物である。皇太子の病気を祈禱で治し皇后の信頼を得て、絶大な権力をにぎった。ロシア革命直前に暗殺された。

3 第一次世界大戦とロシア革命

- ・1914 年、ロシアは第一次世界大戦に参戦したが、緒戦でドイツ軍に大敗した。
→食糧や燃料が不足して国民の生活は苦しくなり、戦争反対の声が高まった。

- ・1917 年 3 月（ロシア暦 2 月）、首都（ ）で民衆による大規模なデモやストライキが起こった。
→労働者や兵士は再び（ ）を結成して、これに加わった。
→皇帝（ ）は退位して、（ ）が成立した。
※これをロシア三月革命（ロシア暦では ）という。



ドイツのヒンデンブルク将軍

東方からドイツに侵入したロシア軍だったが、タンネンベルクの戦いでヒンデンブルク将軍率いるドイツ軍に大敗した。



冬宮前に集まる民衆

1916 年夏には中央アジアの諸民族が蜂起するなど、不安定な状況が続いていた。食料の配給を求める数万人の民衆は、皇帝のいる冬宮に集まった。



ソヴィエトに参加した兵士

皇帝が民衆への発砲を命じると、皇帝を守るはずの兵士までも、革命に加わった。これでロマノフ家の命運は尽きた。

- ・立憲民主党を中心とする臨時政府は戦争を継続したので、民衆の不満が高まった。
→またソヴィエトも存続したため、不安定な（ ）状態となっていた。
- ・一方ボリシェヴィキの（ ）は、4 月、スイスから封印列車で帰国した。
→レーニンは、（ ）で「 」と述べ、さらに戦争の即時停止を訴えて臨時政府と激しく対立した。
- ・7 月に（ ）が臨時政府の首相となったが、やはり戦争を継続した。
- ・1917 年 11 月（ロシア暦 10 月）、ボリシェヴィキが武装蜂起し臨時政府を倒した。
※これをロシア十一月革命（ロシア暦では ）という。



ケレンスキー首相

社会革命党の右派である。十月革命では、女装してなんとか逃げ出すことに成功した。晩年はアメリカで大学の先生をしていたらしい。



演説するレーニン

レーニンは、臨時政府を倒すことで二重権力状態の解消を目指した。なお「封印列車」とは、スイスからロシアに向かう際、ドイツ領内で勝手に降りないよう列車が封印されていたためこう呼ぶ。